

第22回日本環境会議・滋賀大会 環境再生と維持可能な社会 - Sustainable Society を目指して -

The 22nd Japan Environmental Conference in Shiga
Environmental Rehabilitation, Regeneration and Sustainable Society

9月14日 (日) 21世紀環境再生国際シンポジウム*

滋賀県立大学
交流センター

*日本生命財団による「平成14年度特別研究助成」(研究課題:環境再生を通じた「持続可能な社会」の実現に向けた総合政策に関する学際的共同研究)の一環として開催されるものである。

10時～

特別講演: サステイナブル・シティ その経験と課題: 欧州連合の役割
アルモンド・モンタナーリ (G.d'Annunzio University)

基調講演: 維持可能な社会 (Sustainable Society) と内発的發展
宮本憲一 (滋賀大学)

17時20分～ 日本環境会議総会

18時30分～ レセプション (会場: 彦根プリンスホテル)

9月15日 (月) 分科会・全体会

滋賀大学 経済学部

9時～12時

- 第1分科会 まだ止まぬ地域環境の破壊 — 廃棄物、土壌・地下水汚染 —
- 第2分科会 自然との共生、そして再生
- 第3分科会 公害被害の実態と救済——日中韓における事例交流を中心に
- 第4分科会 <市民共同発電所全国フォーラム2003 午前のセッション>
サステイナブル・ソサエティーとエネルギー

12時15分～ 全体会 大会宣言の採択

13時30分～

●市民共同発電所全国フォーラム2003 午後のセッション

滋賀大学 経済学部

(13:30～15:00)

◆全体会: グリーン電力政策を巡る新たな動き

(15:15～17:00)

◆分科会: 経験の共有

主催: 日本環境会議 (JEC)

後援: 滋賀県生活協同組合連合会・滋賀弁護士会・全国街並保存連盟
日本自然保護協会・日本生活協同組合連合会・日本弁護士連合会

参加者の皆さんへご協力とお願い

受付でお渡ししました名札は、大会・発電所フォーラム終了後、中身を抜いて頂き、必ず受付にご返却ください。
(2日間ご参加いただく方は、最終日にご返却ください)

名札ケースの中には、お申込みの際にご注文頂きました昼食券・レセプション券が入っています。ご確認ください、ご使用の際に、各会場での受付にお渡しください。

国際シンポジウムにおいて使用する同時通訳の機器は、プログラム終了後、必ず受付にご返却ください。

大会実行委員が許可した方以外での大会中の撮影・録音は堅くお断りいたします。ご理解とご協力のほどお願いいたします。

会場内での飲食はご遠慮下さい。
各受付会場にコーヒーサービスを設けておりますので、そちらをご利用ください。
喫煙は、各会場の所定の場所にてお願いいたします。

昼食については、10ページをご覧ください。
原則として事前にお申込み頂いた方のご用意してあります。当日お申込みいただいた方については、数に限りがございますのでお断りする場合もございます。予めご了承ください。

開催日により会場が異なります。会場案内図をご参照ください。

15日の会場・滋賀大学経済学部までのアクセス

- ・ 指定ホテルにご宿泊の方
8：15に各ホテルからバス（無料）が出ます。
- ・ JRご利用の方
彦根駅からシャトルバスが出ます。8：00～9：00

緊急時は下記の緊急連絡先までご連絡ください。

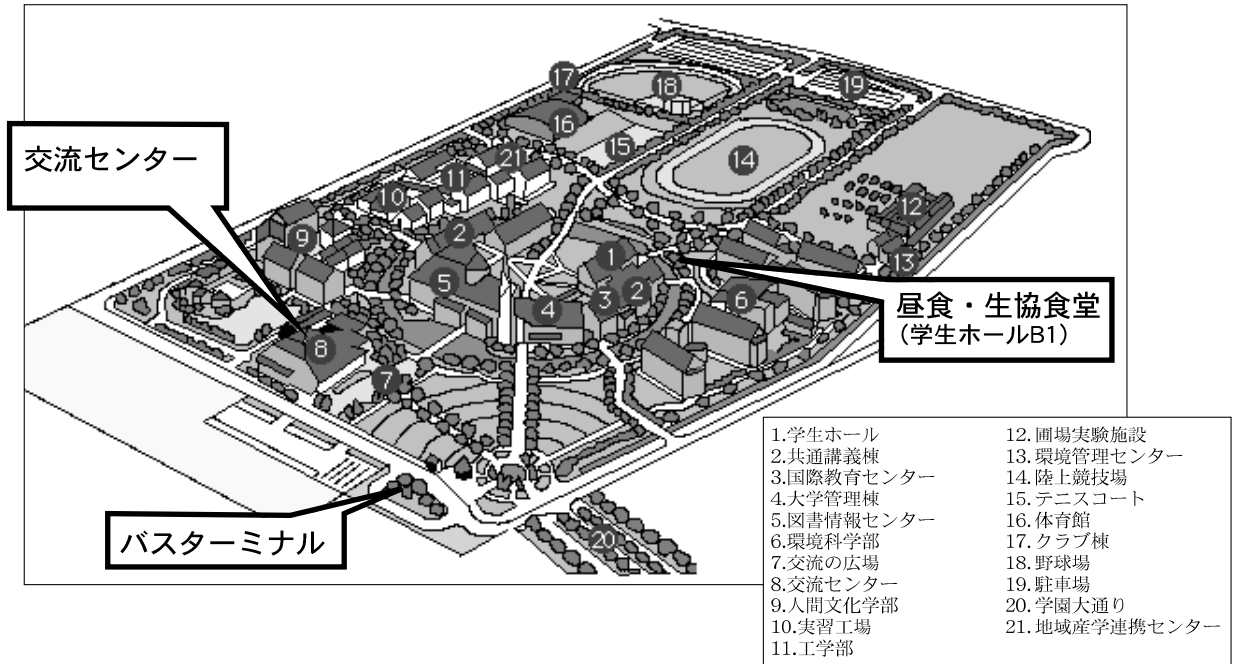
大会緊急連絡先（滋賀大会、フォーラム2003の会場受付）

臨時携帯電話 080-5703-4571

臨時携帯メール 08057034571@sky.tkkne.jp

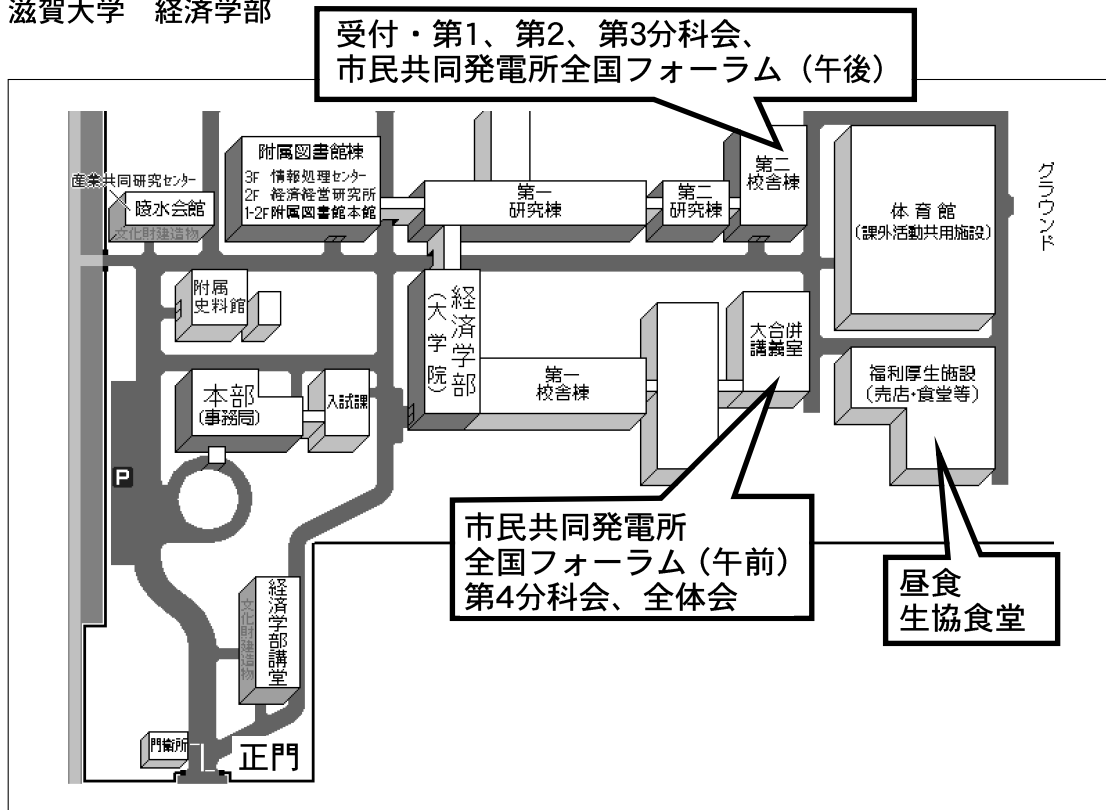
9月14日 (日) 21世紀環境再生国際シンポジウム

滋賀県立大学 交流センター



9月15日 (月) 分科会・全体会 市民共同発電所全国フォーラム2003

滋賀大学 経済学部



9月14日（日） 21世紀環境再生国際シンポジウム

滋賀県立大学・交流センター

10：00～12：00 特別講演・基調講演

特別講演：サステイナブル・シティ その経験と課題：欧州連合の役割

アルモンド・モンタナーリ（G.d'Annunzio University）

基調講演：維持可能な社会（Sustainable Society）と内発的發展

宮本憲一（滋賀大学）

12：00～13：00 昼休み（昼食については、10pへ）

13：00～17：20 米国・アジアでの環境再生への取り組み

都市のエコロジーと都市の形態——ボストン都市再生

神田駿（マサチューセッツ工科大学）

韓国のサステイナブルなエネルギー政策の経験と課題

KIM, Jung-Wk（ソウル大学）

中国のエコサービス重点地域の保護と再生

WANG, Xi（上海交通大学）

環境再生と維持可能な社会に向けて——日本での取り組みを中心に

淡路剛久（立教大学）

総合討論

17：20～17：50 日本環境会議総会

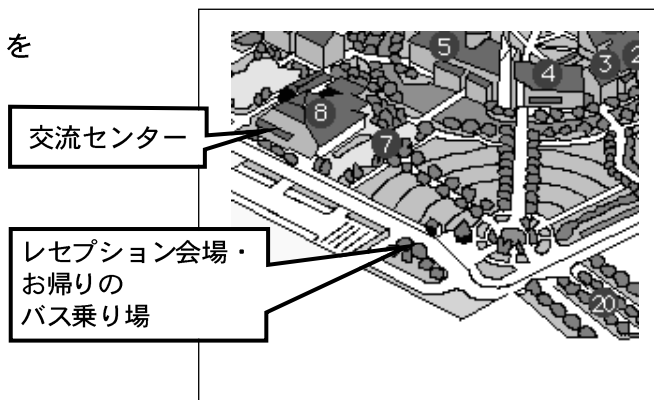
●レセプション（会場：彦根プリンスホテル）

18：00 受付

18：30 開会（～20：30）

参加費 6,000円（またはクーポン券）を
会場入口でお支払いください。

※レセプション会場へは、
送迎バス（無料）を用意しています。
17：20 発 17：50 発

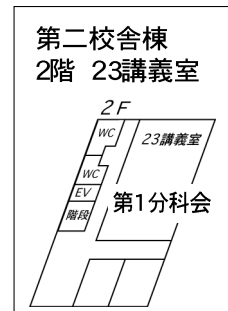


●第1分科会

まだ止まぬ地域環境の破壊

—廃棄物、土壌・地下水汚染—

地域環境の再生を阻むものとして、廃棄物処分問題と土壌・地下水汚染問題があります。滋賀県でも、栗東市の産業廃棄物処分場問題、守山市・野洲町の水道水源の地下水汚染問題などが起こっています。近辺でも福井県敦賀市の産業廃棄物処分場問題が、全国的には青森・岩手県境の産業廃棄物不法投棄事件などが起こっています。これらの事例報告を通じて、廃棄物や土壌・地下水汚染問題を議論します。



座長：上園昌武（島根大学）、近藤公人（弁護士）

コメンテーター：原科幸彦（東京工業大学）

- (1) 日本の廃棄物、土壌・地下水汚染問題 畑明郎（大阪市立大学）
- (2) 滋賀県栗東市「RDエンジニアリング」産廃処分場の汚染調査における問題点
高谷清・谷口健興（産業処理問題合同対策委員会）
- (3) 福井県敦賀市檜曲 一般・産業廃棄物処分場による河川・地下水汚染
坂巻幸雄（元工業技術院地質調査所）・○石川孝織（慶応義塾大学）
- (4) 高見フローラルタウンの土壌汚染
土壌汚染対策法の適用をめぐる大阪市と住民の対決点 瀬戸一正（大阪市市会議員）
- (5) 野洲川下流域の四塩化炭素による地下水汚染の現状と対策
吉川忠司（守山市市会議員）

●第2分科会

自然との共生、そして再生

大自然としての琵琶湖は、景観から鳥・魚・昆虫・植物と豊かな生態系、そして、農業・漁業・ヨシ産業や文化を育んできました。京阪神の水圏としての水質・水量の問題もあります。しかし、人間は必然であれ、楽しみであれ多くの犠牲を琵琶湖に課してきました。ここで、人間は一步ひくことで、自然との共生そして再生を行動に移す時期に来ています。そこで、水に関わる事例報告から琵琶湖に今一番必要とされているものを考えていきますが、それらが、ひいては持続可能な社会の構築の基礎となりえるか、議論をすすめていきます。



座長：川那部浩哉（琵琶湖博物館）、中野桂（滋賀大学）

コメンテーター：羽山伸一（日本獣医畜産大学）、沖野外輝夫（早稲田大学）

- (1) 琵琶湖のレジャー利用に関する条例と課題
 - ア 水上バイク事例 井上哲也（緑とやすらぎのある新海浜を守る会）
 - イ 琵琶湖の外來種問題 戸田直弘（守山漁業協同組合）
- (2) 淀川水系流域委員会のプロセス報告 寺田武彦（淀川水系流域委員会）
- (3) 水辺と内湖再生
 - ア 津田内湖再生に向けて—環境フィールドワークから市民会議へ
柴田いづみ（滋賀県立大学）
 - イ 琵琶湖の水辺について 寺川庄蔵（FLB びわこ自然環境ネットワーク）
 - ウ 霞ヶ浦の環境保全と持続型社会の構築をめざす市民型公共事業—アサザプロジェクト—
飯島博（NPO法人アサザ基金、霞ヶ浦・北浦を守る市民連絡会議）

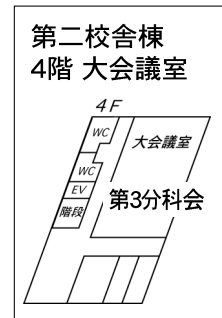
●第3分科会

公害被害の実態と救済——日中韓における事例交流を中心に

近年の公害裁判においては、裁判所による勧告、和解、判決などの法的手段を活用した被害者の救済や環境対策が各地ですすめられています。そこで第3分科会では、中国や韓国における、公害被害の救済や裁判制度上の課題などの報告をうけて、公害・環境問題をめぐる紛争処理の実態を明らかにし、被害者の救済や問題解決を図るための対応と手法および各関係者の役割について議論します。

座長：村松昭夫（弁護士）、中島晃（弁護士）

コメンテーター：磯野弥生（東京経済大学）、吉村良一（立命館大学）



- (1) 東京大気汚染公害判決における成果と今後の被害者救済 西村隆雄（弁護士）
- (2) 妻とともにがんばった薬害ヤコブ病—薬害ヤコブ病全面解決と今後の課題
谷三一（薬害ヤコブ病大津訴訟原告団）
- (3) 中国における最新の環境事件からみた環境訴訟の発展動向と問題点
王燦発（中国政法大学公害被害者法律援助センター）
- (4) メヒャンリ射撃場の騒音被害による地域住民の損害賠償請求訴訟について
朴泰（弁護士、韓国環境運動連合公益環境法律センター）
- (5) 韓国の公害の現状と法的救済—大気汚染を中心に
朴五淳（弁護士、グリーンコリア環境訴訟センター）

●第4分科会

サステイナブル・ソサエティーとエネルギー

維持可能な社会（Sustainable Society）を作る上で、太陽光・風力を初めとする環境保全型エネルギーの普及拡大は必須の課題です。1990年代後半以降、政府の普及政策が十分でない中、市民サイドでは全国各地で市民協共同電の取り組みが急速に進んできました。そこで、市民共同発電全国フォーラムと協同で開催する特別分科会として位置づけ、これまでのエネルギー政策を総括し、再生可能エネルギー普及と市民の役割を検討します。

コーディネーター：長谷川公一（東北大学）・津留崎直美（弁護士）

コメンテーター：水谷洋一（静岡大学）

- (1) 「もんじゅ」廃炉は持続可能な社会への第一歩
アイリーン・美緒子・スミス（グリーン・アクション）
- (2) 欧州の再生可能エネルギー普及と市民の役割 和田武（立命館大学）
- (3) 市民の取り組み
 - 1) バイオマス利用と市民 藤井絢子（滋賀県環境生活協同組合）
 - 2) 市民風車が創りだす地域社会の希望 三上亨（グリーンエネルギー青森）



全体会 12：15～13：00
まとめ／大会宣言の採択

※都合によりプログラムの内容を変更することがありますので、ご了承下さい。

9月15日（月） 市民共同発電所全国フォーラム2003

9時～17時 滋賀大学 経済学部

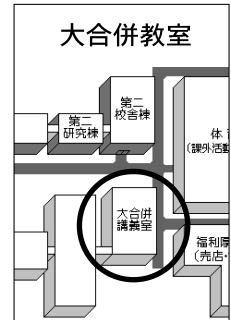
9：00～12：00

●全体会1：サステイナブル・ソサエティとエネルギー

コーディネーター長谷川公一（東北大学）・津留崎直美（弁護士）

コメンテーター：水谷洋一（静岡大学）

- (1) 「もんじゅ」廃炉は持続可能な社会への第一歩
アイリーン・美緒子・スミス（グリーン・アクション）
- (2) 欧州の再生可能エネルギー普及と市民の役割 和田武（立命館大学）
- (3) 市民の取り組み
 - 1) バイオマス利用と市民 藤井絢子（滋賀県環境生活協同組合）
 - 2) 市民風車が創り出す地域社会の希望 三上亨（グリーンエネルギー青森）



12：00～13：30 昼食・休憩

13：30～15：00

●全体会2：グリーン電力政策を巡る新たな動き

進行：藤永延代（おおさか市民ネットワーク）、大島堅一（立命館大学）

- (1) グリーン電力と市民 長谷川公一（東北大学）
- (2) グリーン電力政策を巡る新たな動向と課題 飯田哲也（環境エネルギー政策研究所）
- (3) 新エネ利用特措法（PRS法）の持つ問題点 中川修治（太陽光・風力発電トラスト）

15:00-15:15 休憩（分科会会場へ移動）

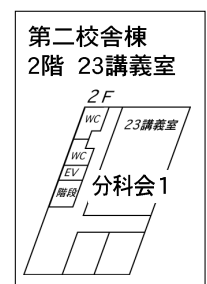
15：15～17：00

●分科会：経験の共有

【分科会1】市民共同発電所設立の経験交流

進行：和田武（立命館大学）、藤井絢子（滋賀県環境生活協同組合）

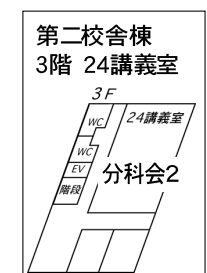
- (1) 滋賀のお陽様基金の取り組み 溝口弘（びわこ・お陽様基金）
- (2) 「きょうとグリーンファンドの取り組み」
大西啓子（きょうとグリーンファンド）
- (3) 「高知の市民共同発電の取り組み」 岩田裕（21世紀地球市民の会）



【分科会2】市民と行政、企業とのパートナーシップにもとづく事業推進のあり方

進行：飯田哲也（環境エネルギー政策研究所）

- (1) 「京都におけるグリーン電力制度の可能性」 豊田陽介（京エコロジーセンター）
- (2) 「太陽光発電・地域通貨をめぐる野洲町の経験」
遠藤由隆（野洲町政策企画班）
- (3) 「行政との協働の取組」 佐藤一子（ソフト・エネルギー・プロジェクト）
- (4) 「久居市における風力発電事業の取組みについて」
新秋生（久居市総務部企画課）



※都合によりプログラムの内容を変更することがありますので、ご了承下さい。

われら地球人



豊かな精神世界の樹人を目指し、豊かな心を培った想と理想が結ぶ日本の環境教育ブレイクアウト—環境教育研究会の活動大で

「環境教育」は、教育の場から社会まで、あらゆる場面で展開されていくべきものである。環境教育の推進には、教育者だけでなく、行政、企業、市民の協力が不可欠である。環境教育研究会は、このような環境教育の推進を目的として設立された。研究会では、環境教育の現状を調査し、その課題を明らかにし、その解決策を模索している。研究会の活動大では、環境教育の重要性を説き、その推進のための具体的な方策を提示している。研究会の活動大は、環境教育の推進に大きく貢献している。研究会の活動大は、環境教育の推進に大きく貢献している。研究会の活動大は、環境教育の推進に大きく貢献している。

Think Globally, Act locally

絶滅の危

絶滅の危を恐るべき動物は、世界中に数多く存在している。その中には、人間活動によって生息地を失った動物も少なくない。絶滅の危を恐るべき動物は、人間活動によって生息地を失った動物も少なくない。絶滅の危を恐るべき動物は、人間活動によって生息地を失った動物も少なくない。

ベッコウトンボ

ベッコウトンボは、美しい羽を持つトンボの一種である。その生息地は、温暖な気候を好む。しかし、環境汚染や生息地の破壊によって、その数は激減している。ベッコウトンボの絶滅を防ぐためには、環境保護の取り組みが必要である。ベッコウトンボの絶滅を防ぐためには、環境保護の取り組みが必要である。

公害や環境問題についての学際的な研究組織「日本環境会議」の第22回大会が、今日13日から福岡県藤塚市を中心に行われる。大会実行委員長の宮本憲一（京都大学）は「社会環境システムを変えて持続可能な社会を目指そう」と大会の成功を願っている。（北村 寛史）

日本環境会議道賀大会を開く 宮本 憲一さん(73)



日本型の環境再生を

「環境」は、自然環境と人間環境の両方を指す。環境再生とは、自然環境を回復し、人間環境を改善することを意味する。環境再生は、持続可能な社会を実現するための重要な課題である。環境再生は、持続可能な社会を実現するための重要な課題である。環境再生は、持続可能な社会を実現するための重要な課題である。

環境再生は、持続可能な社会を実現するための重要な課題である。環境再生は、持続可能な社会を実現するための重要な課題である。環境再生は、持続可能な社会を実現するための重要な課題である。

環境再生は、持続可能な社会を実現するための重要な課題である。環境再生は、持続可能な社会を実現するための重要な課題である。環境再生は、持続可能な社会を実現するための重要な課題である。

風力発電の先駆けとして知られる山形県立川田町の風車群を見て、風車という、のどかな風景を思い浮かべてしまうが、同時に風車は巨大のものでプレー（風）の直径が70m余、地上10m超の風を受け、巨大な翼が回る。まは、なんとも力強い。この前には日本三大風車といわれる「徳川だし」が吹く。機材を準備、機材を合わせ続けてきた。ところが十数年ぶり、町民

逆転の時代

「この国を逆手に取って、風による発電、風による町おこしを、と提案される。自然のクリーンエネルギーを、この時代の旗手も兼ねて大成功。すでに町の総電力の約4割をまかなう「町」は100%に」と驚嘆している。これまでのマイナスが、逆転

日本環境会議第22回滋賀大会

資金カンパをいただいた団体・個人（2003年9月10日現在）

愛知県公害病患者の会連合会／尼崎公害患者・家族の会／尼崎大気汚染公害弁護団／荒川葉子弁護士／井奥圭介弁護士／井関和彦弁護士／イタイイタイ病訴訟弁護団／イタイイタイ病対策協議会／板井優弁護士／大櫛和雄弁護士／加藤満生弁護士／加納力弁護士／カネミ油症事件弁護団／鴨川法律事務所／川崎公害裁判弁護団／川辺川利水訴訟弁護団／久保井一匡弁護士／熊本水俣病訴訟弁護団／倉敷公害患者と家族の会／倉敷公害訴訟弁護団／小牧英夫弁護士／近藤忠孝弁護士／滋賀第一法律事務所／清水善朗弁護士／白川博清弁護士／鈴木守弁護士／須田滋弁護士／須田政勝弁護士／千場茂勝弁護士／谷智恵子弁護士／津留崎直美弁護士／東京あさひ法律事務所／東京公害患者と家族の会／東京大気汚染公害裁判原告団／東京大気汚染公害裁判弁護団／豊田誠弁護士／中島晃弁護士／中杉喜代司弁護士／名古屋新幹線公害弁護団／新潟水俣病弁護団／西村隆雄弁護士／西淀川大気汚染訴訟弁護団／早川光俊弁護士／秀平吉朗弁護士／前哲夫弁護士／松井清志弁護士／馬奈木昭雄弁護士／水野武夫弁護士／水俣病京都弁護団／峯田勝次弁護士／村松昭夫弁護士／葉害ヤコブ病京都弁護団／葉害ヤコブ病東京弁護団／山川元備弁護士／吉野高幸弁護士／四日市公害基金

昼食について

14日 12時～ 場所：滋賀県立大学 生協食堂 (学生ホールB1)

★ランチバイキング

クーポン券（名札ケース裏側に入っています）、
または当日券（1,000円）を受付にてお買い求めください。
クーポン券は昼食会場でお渡しください。

生協食堂へは、
係員が誘導し
ます。

※原則として事前にお申込み頂いた方のご用意してあります。当日お申込みいただいた方については、数に限りがございますのでお断りする場合もございます。予めご了承ください。

※理事会へご参加の方は、理事会会場（交流センター 研修室1）で食事を用意しています。

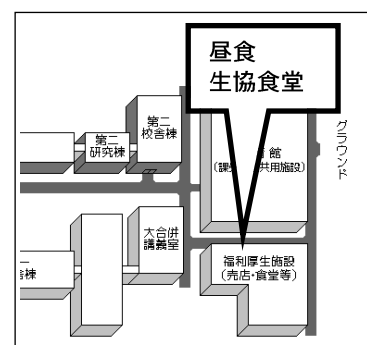
15日 12時～ 場所：滋賀大学経済学部 生協食堂

★ランチバイキング

クーポン券（名札ケース裏側に入っています）、
または当日券（1,000円）を受付にてお買い求めください。
クーポン券は昼食会場でお渡しください。

※原則として事前にお申込み頂いた方のご用意してあります。当日お申込みいただいた方については、数に限りがございますのでお断りする場合もございます。予めご了承ください。

※発電所フォーラム参加の方は、なるべく1時まで、
お食事を終えていただきますようお願いいたします。



お帰りについて

14日

●レセプションに参加される方

レセプション会場への送迎バス（無料）を用意しています。
バスターミナル 17:20発 17:50発

滋賀県立大バス停

南彦根駅行き
17:10発、40発
18:10発、40発

●レセプションに参加されない方

JR彦根駅までのシャトルバス（お一人200円）をご利用いただくか、
JR南彦根駅までの路線バスをご利用ください。

JR彦根駅（土休日）

●京都方面行き
12:00、12:30、42
13:00、12:30、42

15日 タクシーをご利用いただくか、徒歩にてお帰りください。

- タクシー：JR彦根駅まで約5分（800円程度）
 - *近江タクシー 電話 0749-22-0106
 - *ひこねタクシー 電話 0749-22-4500

17:00、10、29、35、49、59
18: 10、29、40、 59

●米原方面行き
12:07、13、34、43
13:07、13、34、43

- 徒歩 : JR彦根駅まで約20分

17:09、13、39、46、54
18:11、16、27、41、46、57